

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では概ね東京都の平均正答率を上回っており、特に「書くこと」の内容の平均正答率が高かった。算数では東京都の平均を下回る項目があり特に「数と計算」と「変化と関係」の領域の平均正答率が低い。
○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、問題解決を一人で行うことが苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○友達同士で交流して学ぶ前に、一人ひとりが学習課題に対して、自分の考えをもち、それを筋道を立てて説明する力を高める必要がある。
○自分の考えをもつために、既習事項を振り返り、授業の課題や見通しをもてるように授業展開を工夫する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「坂下小スタンダード」の取り組みを継続することにより、問題解決を主にした学習、全員活躍型の授業、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行い、全員が参加できる授業を作る。
○「合理的配慮」の提供により、すべての子どもの学習権を保障する。
○「すららドリル」や「東京ベーシックドリル」などを活用し、一人一台端末を効果的に活用する。
○短作文、俳句、などに取り組み思考力や表現力を高める。
○発問や指示などで明確な短文を示すことで、読み解く力の育成を行う。
○家庭学習を習慣化し「宿題」から「自分学習」へ取り組む態度を変えていく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○全学級で授業の最初に「めあて」を提示し、そのめあてに対して、どのように進めるか見通しを持たせて自力解決を行うようにする。また、児童が自己選択・自己決定・自己調整ができる場面を作る。	○算数、理科、社会などの教科で非言語情報を扱う際に、必ず文と対応させる活動を行う。 ○月に一度、全学級で俳句の句会を開き、語彙を広げる活動を行う。	○各教科や領域で、問題提示（問題の把握）・課題設定→自分の考え→友達への考え（根拠を示す）→分析・考察→まとめ・表現→振り返り→新たな課題の設定というスパイラル方式の授業を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取り組み

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
【読み解く力の育成】 ○算数、理科、社会などの教科で非言語情報を扱う際に、必ず文と対応させる活動を行う。 ○俳句、短作文、詩など活動や体験を言語化する活動を多く行う。 ○振り返りをノートに書く際に、学年に応じた文字数を書くように指導する。	○児童が問題や本時のめあてを設定し（問題の把握）、それに対する自分の考えをもち、友達の考えを聞き（根拠を示す）友達の考えと比べ（分析・考察）課題解決し、新たな課題設定するという授業のスタイルを各教科で実践する。 ○各教科で身に付ける、言葉で表す力、グラフや表を読み取る力、社会や理科の知識などを活用して課題設定ができるような授業展開を行う。	○デジタル教科書を使って、児童が視覚的に理解できるようにする。 ○タブレットを使って、児童一人ひとりの考えを集めたり発表したり共有したりする。 ○すららドリルや「東京ベーシックドリル」などを活用して家庭学習の習慣化を図り、基礎的・基本的な学力の定着を図る。